

提言 7

「本の時間」をつくりましょう。

．．．．本に触れ合う環境は整っていますか？

〈調査からわかったこと〉

近年、子どもの活字離れや読書離れが問題として指摘されていることから、本県でも読書活動を推進してきました。1か月の読書量について、平成10年度に当センターが実施した調査と今回の調査を比較すると、「0冊」と回答している子どもの割合は減少しています。しかし、中学、高校と学年が上がるにつれて、「0冊」と回答している割合が増加している傾向は前回と同じでした。

提言1では、読書を大切と思うことや読書量とあいさつとの関連が見られることを述べましたが、実際に読書をしている子について見てみると、読書量の多い子は、読んだ本の内容について家族と話しているなど、家族とのコミュニケーションが良好なことがうかがえます。

また、本を読む子は、家族や友達など周囲に本をよく読む人がいると感じていますが、本を読まない子は、周囲に読む人がいないと感じているようです。

さらに、読書量の多い子や読書を大切と思う子は、勉強を大切だと思い、学習時間も多い傾向があり、授業の理解度も高い傾向が見られます。

《私たち大人ができること》

現在、学校や家庭、地域などでさまざまな読書活動が展開されており、読書は知識を豊かにし、豊かな心を育むなどの他にも計り知れない価値が認識されつつあります。さらにこの調査からは、読書は、望ましい生活習慣や学習への取組とも関連があることがわかりました。

しかし、学年が上がるにつれて本を読まなくなる傾向を考えると、継続的に子どもたちが本に親しむ時間を確保していくことが大切です。

子どもが幼いうちは、大人も子どもも、本の読み聞かせなどにより本と触れ合う時間を楽しむことが多いものですが、子どもが成長するにつれてそのような時間が少なくなっているはいないでしょうか。

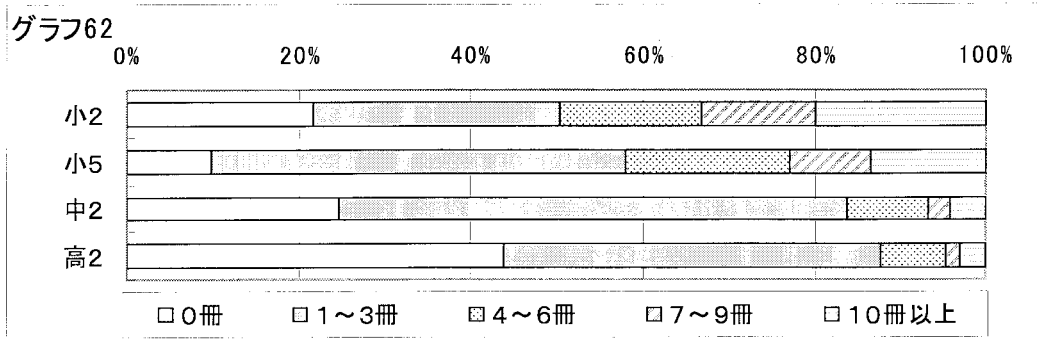
学校では、「朝の読書」などにより読書の時間を確保することで、一定の成果が上がっていますが、さらに工夫を加えて読書の習慣化や質の向上を目指していきましょう。家庭では、子どもと一緒に本を読む時間をつくったり、読んだ本の話をしたり、「この本よかったよ」と勧め合ったりするなど、「身近に本がある」「身近に本を読む人がいる」などの本と触れ合う環境を整えて、自ら本を読む「本好きな子」に育てていきましょう。

本に触れ合う環境は整っていますか？

【データ】

1 平成10年度に当センターが実施した調査では、対象学年、質問内容が若干異なるため単純には比較できませんが、各学年とも1か月に読む本の冊数を「0冊」と回答している子どもの割合が大幅に減少しており、全体としては改善傾向にあります。

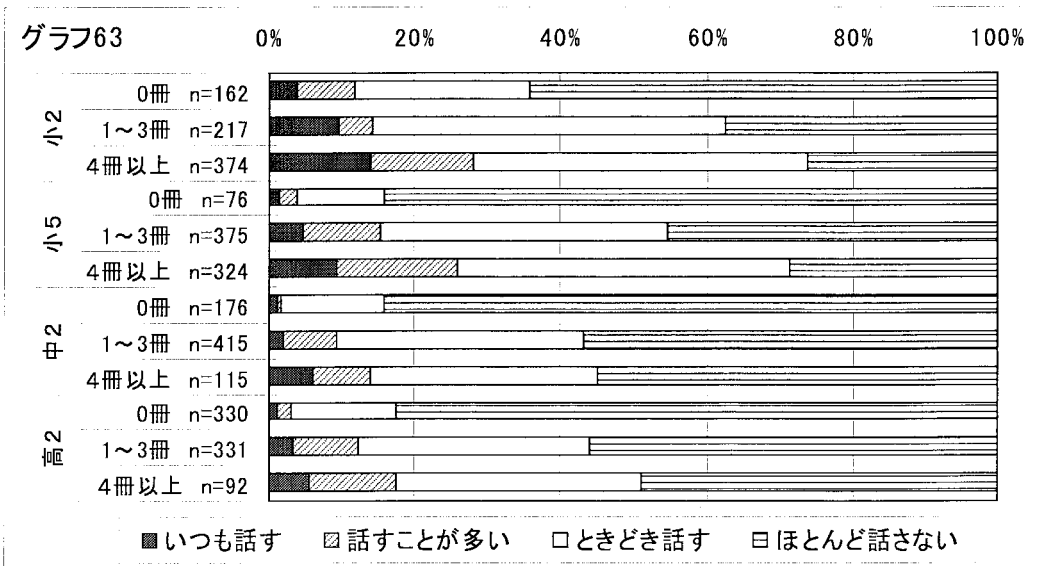
ただし、中学、高校と学年が上がるにつれて「0冊」が増えている傾向は前回と同様です(グラフ62)が、読書量については、小学生と高校生では読む本が異なるので、単純な比較はできません。



グラフ62:「1か月にどれくらい本を読むか」の単純集計結果

※ 以降のグラフでは、1か月に読む本の冊数の「4~6冊」「7~9冊」「10冊以上」をまとめて、「4冊以上」と類型化した。

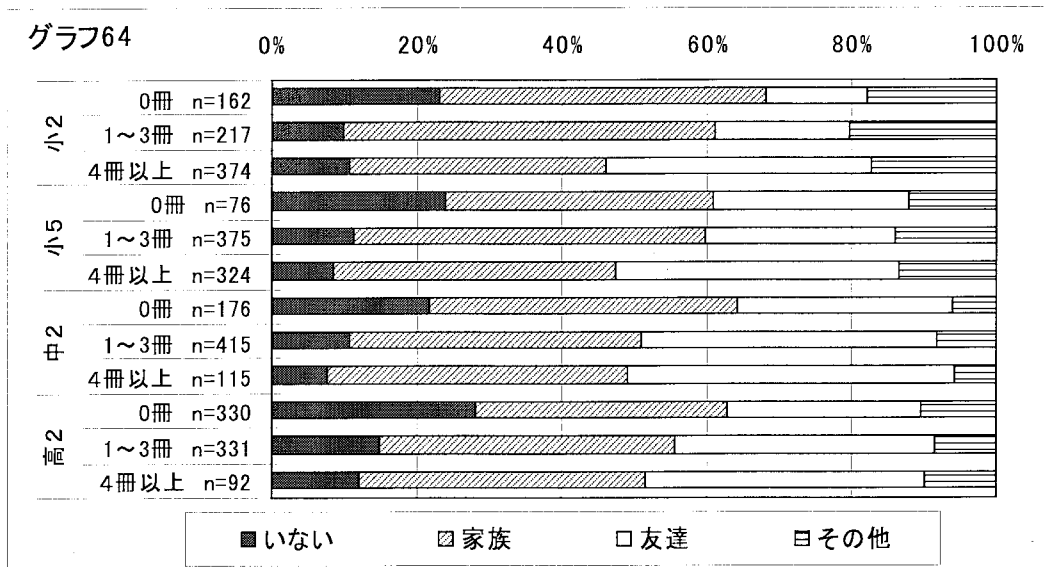
2 読書量が多い子は、読んだ本の内容について家族と話す傾向があります(グラフ63)。



グラフ63:「1か月にどれくらい本を読むか」と「読んだ本の内容について家族と話すか」のクロス集計結果

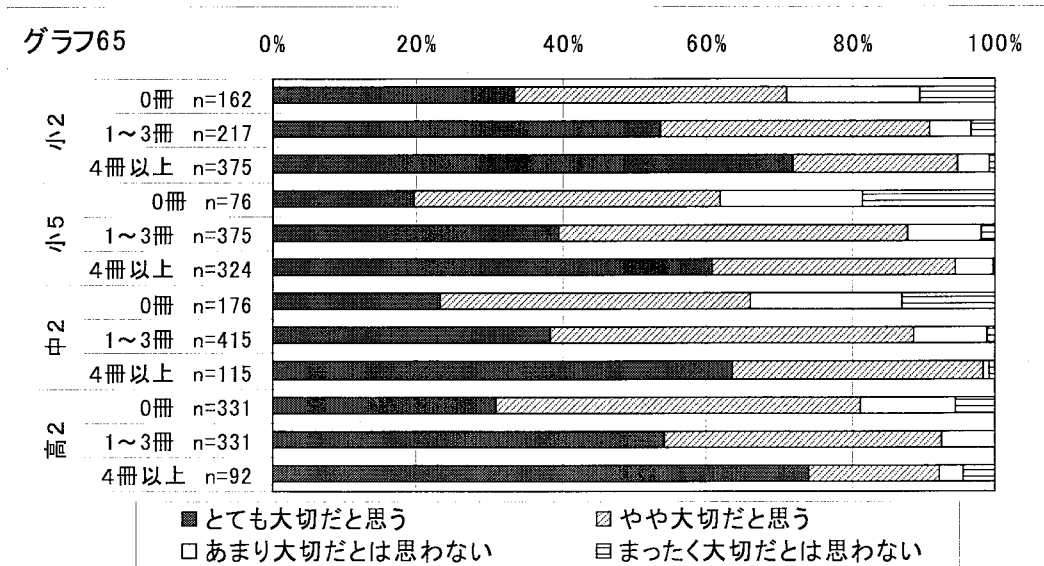
3 本を読む子は、家族や友達など周囲に本をよく読む人がいると感じているが、本を読まない子は、周囲に読む人がいないと感じているようです。

また、読書量に関係なく約4割の子が本を読む人を「家族」と回答していますが、読書量が多い子ほど友達に本を読む人がいると回答しています(グラフ64)。

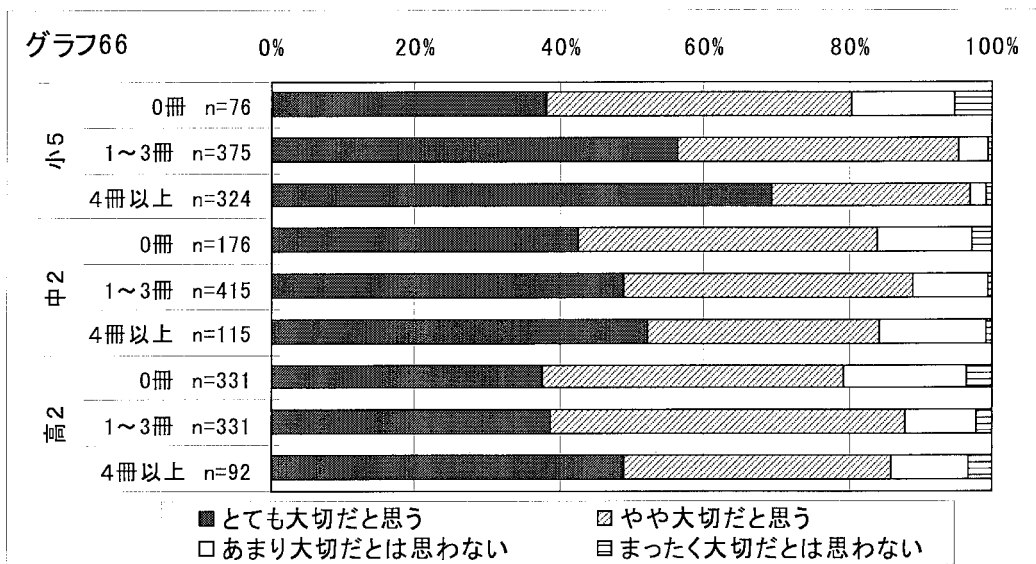


グラフ 64: 「1か月にどれくらい本を読むか」と「周囲に本をよく読む人はいるか」とのクロス集計結果

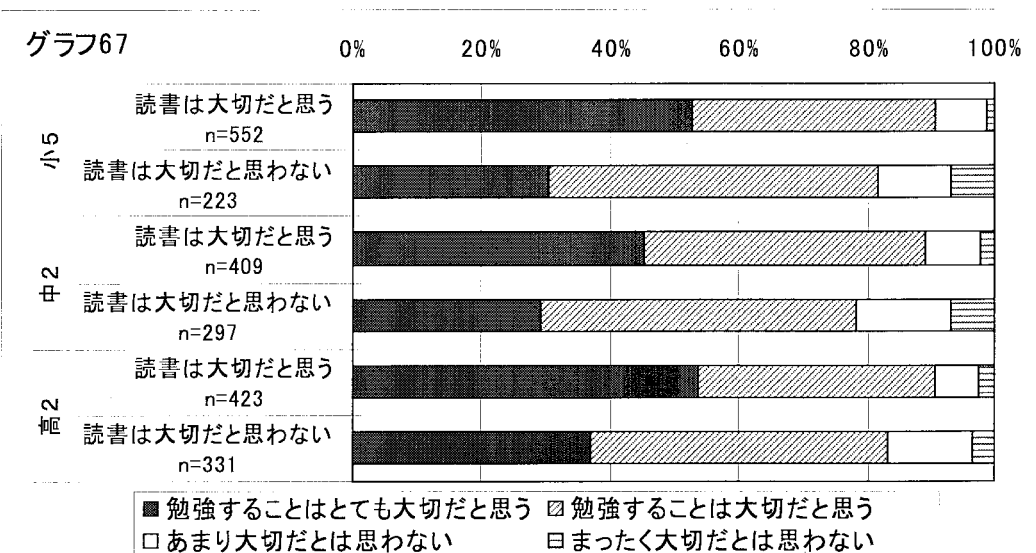
4 読書量が多い子は、読書を大切と考え(グラフ 65)、勉強も大切と考えています(グラフ 66)。また、読書を大切と考えている子は、勉強も大切と考えています(グラフ 67)。



グラフ 65: 「1か月にどれくらい本を読むか」と「本を読むことは大切だと思うか」とのクロス集計結果



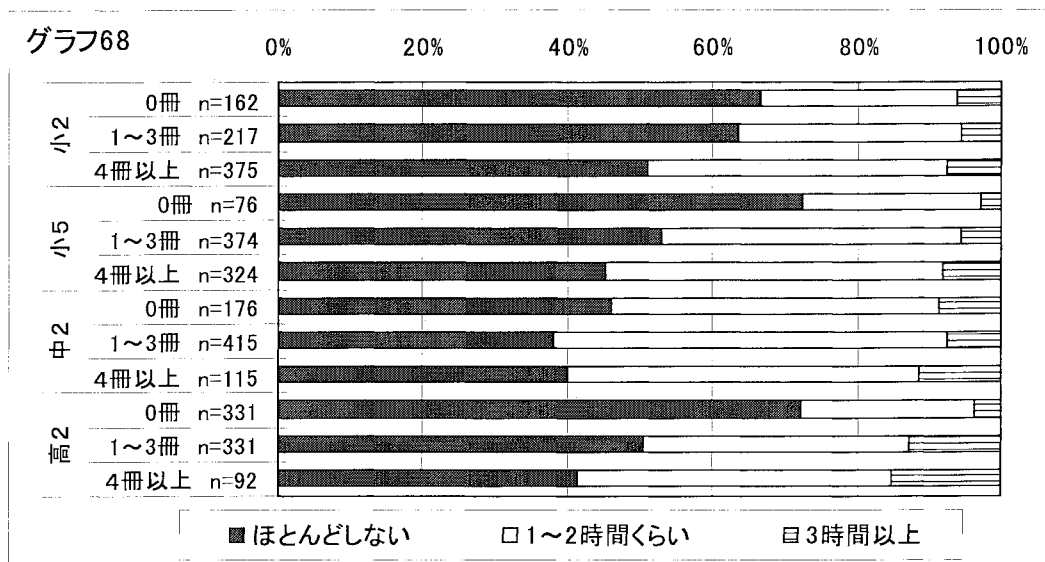
グラフ 66 : 「1 か月にどれくらい本を読むか」と「勉強することは、将来の生活のために大切だと思うか」とのクロス集計結果



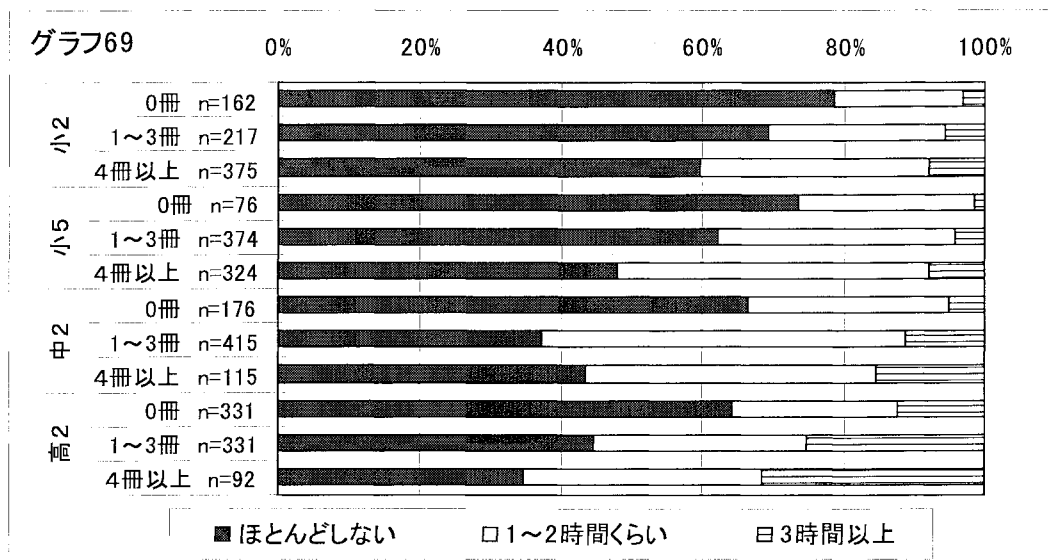
グラフ 67 : 「本を読むことは大切と思うか」と「勉強することは、将来の生活のために大切だと思う」とのクロス集計結果

※ 「本を読むことは大切と思うか」への回答は、「読書は大切だと思う」群（とても大切だと思う＋やや大切だと思う）と、「読書は大切だと思わない」群（あまり大切だとは思わない＋全く大切だと思わない）に類型化した。

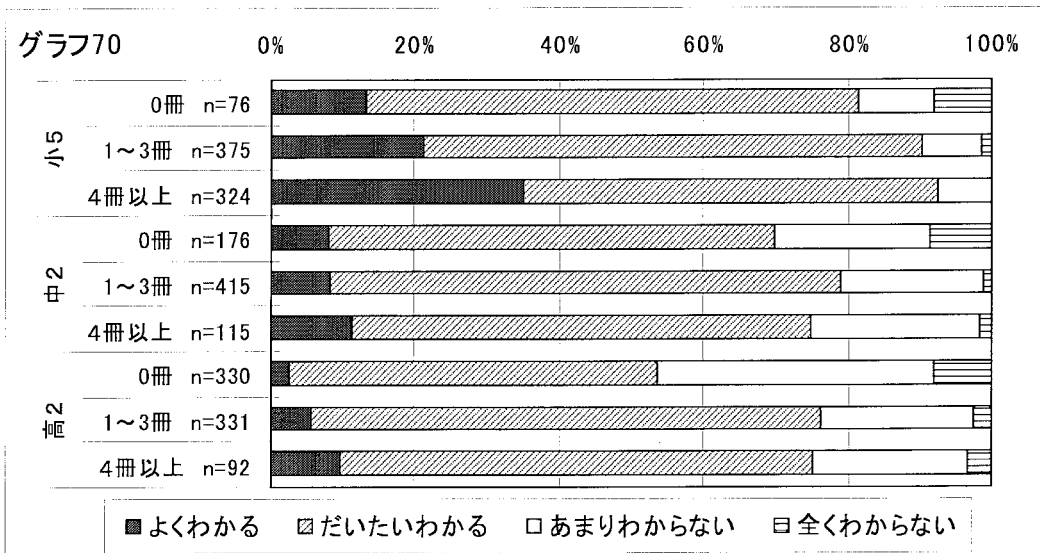
5 読書と学習についての関連を見ると、読書量が多い子は、学習時間も多い傾向があり(グラフ 68、69)、授業の理解度も高い傾向が見られます(グラフ 70)。



グラフ 68 : 「1 か月にどれくらい本を読むか」と「平日の学習時間」とのクロス集計結果



グラフ 69 : 「1 か月にどれくらい本を読むか」と「休日の学習時間」とのクロス集計結果



グラフ70:「1か月にどれくらい本を読むか」と「学校の授業がどのくらいわかるか」とのクロス集計結果